

「クリスチャンであるとは」

～イエス様の十字架と復活～

「アンテオケに到着したバルナバは、神のなさるすばらしいことを見て深く感動し、喜びにあふれました。そして一人一人に、どんな犠牲をはらっても、絶対に主から離れないようにと忠告し、励ましました。…このアンテオケで、キリストを信じる者たちが初めて、『クリスチャン』と呼ばれるようになったのです。」

使徒行伝11章23,26節 [リビングバイブル]

今週は受難週、そして、来週の日曜日は主が復活されたイースターの朝を迎えます。

キリスト教のシンボルは十字架です。しかし、十字架は死刑の道具です。どうして、縁起でもない死刑の道具がキリスト教のシンボルとなったのでしょうか？

それは、主がその死をもって悪魔の最大の業である罪を背負って処理してくださったこと。そして、その罪の結果である死に対して三日目に復活を持って勝利してくださったこと。それはすなわち、悪魔の手から我々を救い出してくださったからです。

初代教会のシンボルは幾つかあったそうですが、十字架もその一つで、ギリシャ語の「キリスト」を意味する「クリストス」の最初の文字であるXが変化したものでもあるとも言われています。また、迫害されていたクリスチャンたちがお互いを理解するために用いたシンボルの一つは「魚」でしたが、それはギリシャ語で「イクソス」といい、その言葉をお互いの合言葉として用いました。「魚」のギリシャ語の文字が「イエス・キリスト・神の子・救い主」の頭文字を並べたものであるということでした。

その当時、周りの人々がキリストを信じる者たちを「クリスチャン」と呼びました。彼らが自分で呼んだものではありませんでした。人々が「あの人々は“キリスト”“キリスト”と騒がしいね」と言われるほど、物好きと思われるほどに、イエス様のことをとても大切にしていたし、救い主である主を多くの人々に伝えていたから、人々からそのような光栄あるニックネームを付けられたわけです。彼らはいつでもおめでたいほど喜んでいました。どんなに辛いことがあっても、賛美を歌い、感謝をしていました。それは、マイナスに目を留めずに、常に神様の恵みに目を留めていたからです。そして、互いに励まし合い、支え合ったからでした。

私たちが「教会」＝「エクレシア(召し出された者たちの集まり)」に集う「クリスチャン」です。創造主である神様が私たちを導いて、同じ主を信じる者としてくださいました。これは特別な関係です。教会は建物や組織ではなく、その人々を指しています。だからそこには救いと復活の力が溢れ流れているのです。共に主の恵みの中に留まり続けましょう！